

【様式1】

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	富山県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	富山市立奥田北小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	3	3	2	1	15	20
児童数	72	74	75	78	87	64	1	451	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学び、豊かなかかわりをもつ子供の育成 - 自分の学びを広げ、深める子供 -
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> <li>低学年 国語科 各教科・領域の基礎基本となる教科として、当該学年で充実させたいため。</li> <li>中学年 算数科 学校として、当該教科に関する研究実績があるため。</li> <li>高学年 総合的な学習の時間 学習事項のすべてを生かして学ぶことのできる領域であるため。</li> </ul>
---

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	テーマ 自ら学び、豊かに自己表現できる子供の育成  研究の見通し(仮説) 子供の感動や疑問などを大切にしたい単元構成や授業形態を工夫することにより、その子らしい思いや願いが膨らみ、豊かな表現力や意欲的な追究が生まれる。 自分の追究を振り返ったり、互いのよさを認め合ったりする場を設けたりすることにより、自分の取組みの見直しができ、新たな追究につながる。 研究の内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の子供が自分の追究意欲を継続していく単元構想</li> <li>一人一人の子供が互いのよさを認め合い、考える楽しさを味わえる評価</li> </ul>
--------	---

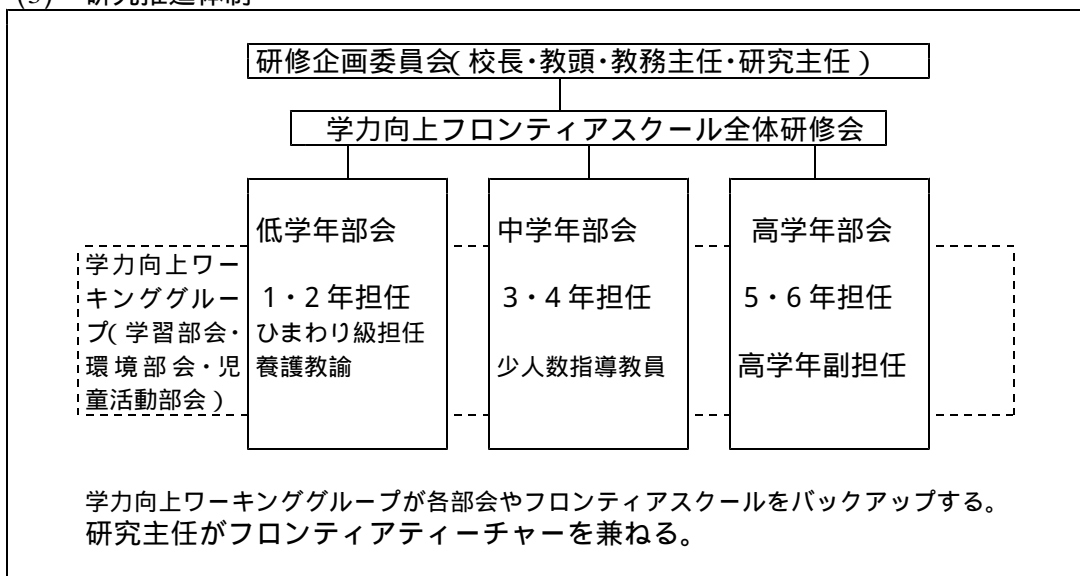
平成15年度	テーマ 自ら学び、豊かなかかわりをもつ子供の育成 ~自分の学びを広げ、深める子供~ 前年度の成果と反省から、豊かなかかわりの必要性を強く感じ、もの・人・自分とのかかわりを豊かにすることが確かな学力をはぐくむことにつながると考えた。 研究の見通し 単元構想を子供の感動や疑問などを大切にしたいものとする事により、その子らしい思いや願いが膨らみ、意欲的な追究やかかわりが生まれる。 かかわりの場を一人一人の思いや考えを見直し、確かなものにしていく場とすることにより、追究に広がりや深まりが生まれる。 自分の追究を振り返ったり、互いのよさを認め合ったりできるような評価のあり方を工夫することにより、自分の取組みの見直しができ、学び続けることができる。 研究の内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>育てたい基礎・基本を明らかにした教材開発や単元構想</li> </ul>
--------	--

【様式 1】

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ かかわりの場において、考えを見直し、確かなものにするための指導体制(少人数指導、T・T指導)や指導方法</li> <li>・ 互いのよさを認め合い、次の学習に生きる評価方法や評価規準</li> </ul>
--	---

平成16年度	<p>テーマ 平成15年度に同じ</p> <p>研究の見通し</p> <p>研究の内容・方法</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

・子供の興味・関心、能力、適性に応じたきめ細やかな指導について、その方法を多様に工夫し、改善していくことを目指して実践してきた。子供一人一人が集団の中で豊かなかかわりを持ちながら、知識・理解・技能はもちろん、主体的に学ぶ意欲、既習の学習事項や学習経験を生かして考える思考力、自分の思いや考え、取組みの様相を的確に伝えるなどの表現力等を高めていくことができ、確かな学力を身に付けていると実感できた。

・少人数指導を行う場合、指導内容や児童の既習事項に応じて、コース(課題別・習熟度別・進め方別)を選択したり、T・T学習との融合を取り入れるなど柔軟な展開を工夫することで、子供たちの多様な考えを引き出し、効率的な学習を進めることができた。「楽しい」「分かる」という子供の声が聞かれる授業の展開ができ、手応えを感じた。

・単元導入前と終末に意識調査を行い数値化して子供の意識の変化をとらえている。少人数指導(課題別・習熟度別・進め方別)において、子供自身が自分のめあてに応じてコースを選択し習熟を図る計画で授業を進めていくことにより、学習前と後での調査結果は、学力向上を十分に意識する子供が多くなった。

・楽しい算数、分かる算数を感じる子供が前年度より増えている。(H16.1調査)

【様式1】

意識調査項目	学年	年度	はい	変わらない	いいえ	その他
少人数学習を始め る前と比べ、算数 の学習が楽しくな りました。	3年生	H14	77%	5%	4%	4%
		H15	91%	9%	0%	0%
	4年生	H14	79%	19%	2%	0%
		H15	90%	7%	3%	0%
少人数学習がある と、以前より算数 の学習が分かるよ うになりました。	3年生	H14	79%	15%	12%	4%
		H15	83%	16%	1%	0%
	4年生	H14	89%	10%	0%	1%
		H15	90%	10%	0%	0%

2. 今後の課題

学力向上を評価するために、さらに職員研修を深めつつ共通理解を図る。また、効果的な評価のあり方を探り、職員の実践の組織化を充実させていく。

学力向上フロンティア事業推進において、さらに地域、保護者の理解と参画を求めるための啓発と協力体制のあり方を探る。

学力等把握のための学校としての取組み

- ・ 学力調査の実施(年1回・4月)
- ・ 少人数指導による学習コース選択時の診断テスト・単元の学習過程でのチェックリスト・算数日記・単元終末時の評価テスト

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

説明会

- ・ 要請訪問研修会(平成15年5月19日・本校・指導主事・本校の取組み)
- ・ 学校訪問研修会(平成15年6月3日・本校・指導主事・本校の取組み)

研究会

- ・ 公開授業研究会(中間発表 平成15年11月12日・本校・県及び市教育委員会関係・富山市内小学校・本校 OB ・県内フロンティアスクール校・地域団体・本校の取組み「自ら学び、豊かなかわりをもつ子供の育成」に基づく授業公開)

HP作成

- ・ 2月末までに立ち上げ、本校の取組みや次年度の本発表に向けての案内等を発信する予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 部教科担任制  その他
- 【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無